

ながおか 長岡まつり大花火大会 花火にこめられた思いとは？

毎年8月1日から3日に「長岡まつり」が開かれます。昭和20年8月1日に起きた長岡空襲で、まちが焼け野原となり約1500名の命が失われました。長岡空襲から1年後、昭和21年8月1日、長岡復興祭が開かれ、市民は心をなぐさめられ、はげまされました。さらに1年後、昭和22年に戦争で中止されていた花火大会が復活しました。これが現在の「長岡まつり大花火大会」の始まりです。花火には、空襲でなくなられた方々への慰霊と復興に力をそそいだ先人への感謝と平和への願いがこめられています。



ふっこうきがん
復興祈願花火フェニックス



花火の舞台は信濃川 復興祈願花火フェニックス

日本一の大河「信濃川」の河川じきに開くと 300 mにもおよぶ尺玉をふんだんに使った大型花火が打ち上げられます。尺玉の音が体にズシッと伝わり花火がおおいかぶさってくるような大スケールです。信濃川にかかる「長生橋」は 850 mのナイアガラ花火の舞台となる橋として、長岡市のシンボルになっています。

平成 16 年 10 月の新潟県中越地震の翌年、平成 17 年に復興祈願と全国からの支援に感謝の気持ちを込めて、市民みずから資金を募り「復興祈願フェニックス花火」を打ち上げました。全国の被災地の復興を応援する花火は、今も多くの人々に勇気と感動を与えています。



復興祈願花火フェニックス



夜空に開く大輪の花 たいりん 正三尺玉とナイアガラ しょうさんじゃくだま

ちよっけい
直径 90 cm, 重さ 300 kg という大きな花火が、直径 650 m もの大輪の花を夜空に咲かせます。空気を震わせながら大きな音がひびきます。この「正三尺玉」と同時に長生橋にしかけられる花火が「ナイアガラ」です。花火が川面に落ちる様子はナイアガラの滝を思わせる大迫力です。



正三尺玉



長生橋からのナイアガラ花火と正三尺玉



道の駅ながおか花火館 ^{たいかん} 長岡花火が体感できる！

道の駅ながおか花火館の長岡花火ミュージアムでは、8月2日・3日に打ち上げられる長岡花火をドーム型花火シアターで体感することができます。展示室では、花火ゲームが楽しめる大ビジョンがあり、長岡花火の歴史や魅力を紹介しています。原寸大の花火玉や花火筒の展示などを見て学んで、楽しむことができます。



原寸大の花火玉



長岡花火ミュージアム



復花火筒の展示等



花火ゲームの大ビジョン